

これからの富士宮を創る広報誌

So good!

創宮

■ トイレットペーパーで
つながるSDGs

■ ゼロカーボンシティ・
SDGs未来都市
「オール富士宮」でチャレンジ!

So good! vol.32



ふるさと納税返礼品 心を込めて包みます

トイレトペーパーでつながる

富士宮市・コアレックス信栄株式会社
災害時における物資供給に関する協定締結式
障害福祉サービス事業者との取組紹介

SDGs



コアレックス信栄株式会社は、令和3年10月15日、災害時におけるトイレトペーパー、ハンドタオルなどの物資供給の協定を富士宮市と結びました。

また、富士宮市で回収された雑がみを原料に、製造過程の一部の作業を富士宮市内の障害福祉サービス事業所に外注してトイレトペーパーを作っています。

これは、だれもが参加できる、環境にも人にも優しい「SDGs」が目指す取り組みです。

家庭や事業所でのごみの分別により「雑がみ」が回収されます。その「雑がみ」を原料に製造されたトイレトペーパーを、障害福祉サービス事業所で包装し、それが製品となり私たちのもとへ届けられます。



ふるさと納税の返礼品に ～障害者施設で包装作業～

市内7つの障害福祉サービス事業所で包装作業しているトイレットペーパーは、富士宮市をPRする「ふるさと納税」の返礼品となりました。また、環境イベントなどで啓発品として活用される予定です。

【事業所】

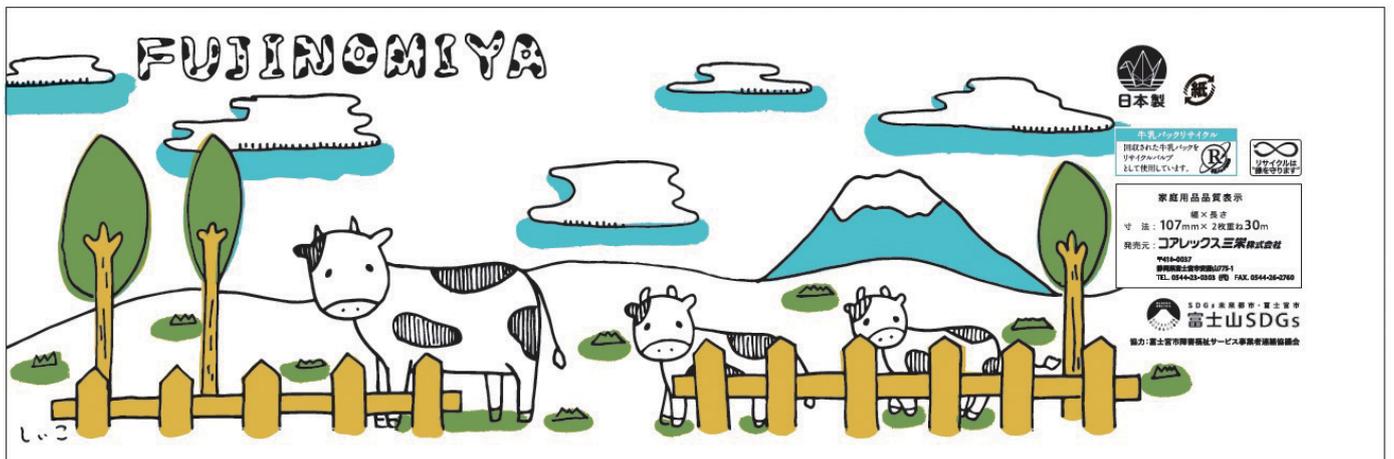
あかつき園、愛の丘、いずみ、EPO FARM
地域活動支援センターバンブー、にこにこサポートふれあい、
エコミットふじのみや



▲あかつき園で包装作業をする皆さん



▲巻紙の位置を慎重に合わせています



トイレットペーパーの巻紙には、障害福祉サービス事業所「ラビット富士宮」の志田しずくさんのデザインが採用されました。

朝霧高原をイメージしたかわいらしいデザインです。



▲志田しずくさん

巻紙イラストコンテストに参加させてもらっただけでもすごい事だったので、私の絵が選ばれたと聞いた時には、嬉しくて涙が出ました。絵を描くことが好きでよかったと思いました。これからも自分らしい絵が描けたらいいなと思います。



ゼロカーボンシティ・SDGs未来都市 「オール富士宮」で チャレンジ!

10月14日(水)「ゼロカーボン」や「SDGs」に先進的に取り組む3社をお迎えし、市長との対談を行いました。

◆対談出演者◆

- 株式会社アマダ 甲斐 不二雄 富士宮事業所長
- 株式会社エンビプロ・ホールディングス 佐野 富和 代表取締役社長
- 富士フィルム株式会社 土田 秀世 富士宮事業場長

ゼロカーボンへの挑戦

須藤市長 ゼロカーボンについて、各社の取り組みや課題などをお聞かせいただけますか。

甲斐事業所長 アマダ富士宮事業所で作っている商品は、大型の板金加工機械がメインで、お客様の工場で板金製品を生産するために使われます。私どもの商品は、お客様に納めから、10年20年と使われ、その使用過程でCO₂が排出されることから、省エネルギーな商品開発に取り組んできました。

昨年、富士宮事業所で生産した板金加工機械のうち、約半数が、省電力・省エネルギー化を図ったエコプロダクツ商品です。代表的なものとして、2011年から製造しているファイバーレーザー光で板金を切る機械を展開していますが、当時からすると約80%の省電力・省エネルギー化を図っています。

商品を作る段階でも省エネルギー化を図っていかねばなりません。が、今は、いかにお客様に省エネルギーでものづくりをしていただくかが

一番の課題です。

佐野社長 リサイクル業にとってゼロカーボンに真つ直ぐ進むことが会社の成長につながっています。

2050年に向けて「再生可能エネルギー使用比率100%達成」という「RE100」を2018年に宣言しました。既に電気系統は全て再生可能エネルギーに切り替え、今年4月で95%を達成したため、目標を20年前倒ししたところでは、

大手企業からは、ものを作るときにも廃棄するときにも、CO₂排出の削減を求められます。我々は廃棄を担うにあたって、この「RE100」が営業の大きなツールになっています。

また、再生材は、もともとCO₂排出量が少ない原材料です。例えば、鉄スクラップから鉄の製品を作るのは、鉄鉱石を使う場合に比べて、CO₂の排出が4分の1と言われています。

その再生材を加工するプロセスにおいても、CO₂をいかに出さない

かが求められています。

我々は、単なる廃棄物の処理処分業から低炭素原材料の製造業となってきたのです。

ものづくりで言われるQ(クオリティ)C(コスト)D(デリバリー)にC(カーボンニュートラル)を加えて、私の造語「QCD C」という業態を作り上げることによって、社会からも大企業からも評価いただいて事業が成長し、社会のためになっているように感じています。

土田事業場長 富士フィルムはもと写真フィルムの会社ですが、今では医療機器から産業材料、複合機など、さまざまな商品を作っています。

富士宮事業場では医療用レントゲンフィルムや抗菌フィルムなどを生産しています。エネルギーを多く使う産業ですので、事業場内に自家発電設備があり、天然ガスを燃料として、発電しながら製品を作っています。さらに、発電して電気を使うだけではなく、その時に生じる蒸気の熱や水なども効率的に使っています。

また、事業場の省エネ技術・設備を駆使し、継続的にCO₂排出量削減を進めてきました。

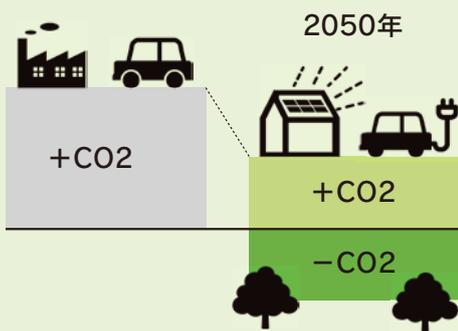
しかし、これから2050年に向

ゼロカーボンとは

地球温暖化の原因となるCO₂(二酸化炭素)などの温室効果ガスの排出を全体としてゼロにすることです。

「排出を全体としてゼロ」というのは、企業や家庭から出るCO₂の「排出量」から、植林、森林管理などによる「吸収量」を差し引いて、実質的にゼロにすることを意味しています。ゼロカーボンに向けての取り組みは、世界中で進められています。

2050年の目標達成に向け、省エネやクリーンな再生可能エネルギーへの転換などでCO₂の排出量を減らすとともに、森を保全するなどCO₂の吸収量を増やすことが必要になります。





富士宮市長 須藤 秀忠 す どう ひてただ

富士宮市は、令和3年1月13日「ゼロカーボンシティ宣言」を表明。同年5月21日、内閣府により「SDGs未来都市」に選定されました。

けてグループとしては、ゼロカーボンを目指しており、富士宮事業場でもその検討を始めたところだ。

購入する電力は、環境に配慮された電気に切り替えていく検討を進めることとなりますが、今まで効率的と言われてきた事業場の発電設備をどう変えていくのが一番の問題です。

燃料に水素やアンモニア、メタンを使うなどいろいろな方法はありますが、どれが一番いいのかまだわかっていない手探りの状態です。

また、太陽光などの自然環境を利用する発電もあります。海外工場では太陽電池とか風力発電を使っている事業所がありますが、立地条件や地域性

が非常に大きく、どう組み合わせるか、富士宮に向けている電気の作り方を考えていく段階です。

もう一つ、富士フイルムグループは、効率的に電気を作り出す素材を提供する側でもあります。その研究開発をこれからも進めていくことになると思います。どう作り、どう貯めるか、世界中の大きな課題に我々も貢献していきたいと考えています。

須藤市長 日本の企業の先駆けである方々のお話に感銘を受けました。

「ゼロ」カーボンという目標に向かって、企業あるいは公共事業体が努力していますが、そこに到達するのは大変なことだと思います。



株式会社
エンビプロ・ホールディングス
代表取締役社長 佐野 富和 さ の とみかず

富士宮市初の東証1部上場企業として田中町に本社を置き、廃棄物を原料に資源を開発し再生するなど、持続可能社会実現の一翼を担う。

佐野社長 現状から見たら相当きつ

く、とても到達しようもないと思えますが、大きな目標を立てれば立てるほど、革新というものが起こると私は思います。

須藤市長 大きく課題として取り上げられることが、問題解決につながっていくということですね。

富士宮市では、脱炭素社会の実現への道筋を立て、地域と暮らしに密接に関わる分野のCO2削減への取り組みを盛り込んだ脱炭素ロードマップの策定に取り組んでいます。

具体的な取り組みとしては、公用車をクリーンエネルギー自動車にすることや、公共施設に太陽光発電設備を

設置することを考えています。

また、市民に対しては、太陽光発電や蓄電池など、電気を家庭で創り、蓄える設備の導入に補助金を交付しています。これにより、家庭での電力の自給自足を進め、CO2排出量の削減に貢献できるものと考えています。

そのほかにも、日本一の小水力発電のまちとして、発電時にCO2を排出しない小水力発電の導入支援に力を入れていきたいと思っています。

事業者だけでなく、家庭での脱炭素化を進め、社会全体の取り組みとなるよう、市民の関心を高め、市民の行動を後押しすることが重要だと考えています。

環境保全と資源循環

須藤市長 それでは、次のテーマとして

SDGsの視点から各社では、どのような取り組みをしているかお伺いします。

甲斐事業所長 北山にある23万坪の事業所敷地内に、「アマダの森」と称して13万坪の天然林を保全しています。毎年1回、アマダの森の動植物を調査しており、現在、1500種が確認されています。その中には、環境省が指定する絶滅危惧種もあり、それらを守る活動をしています。

その活動を知ってもらうために、社員や地域の子どもたちを招いて間伐体験や勉強会を開催しています。

その他に、世界環境デーに合わせて、田貫湖のウォーキングを兼ねた清掃活動を20年ほど続けています。

また、私どもは、加工機械の製造過程で、できるだけスクラップを出さないことに取り組んでいます。最小限にしたスクラップも資源ですので、それをどのように有効活用するかも課題

です。

佐野社長 ヨーロッパでは、製品を作るときに再生樹脂を一定量入れるなど、環境への配慮が求められます。

再生材は、環境に優しい材料（グリーンマテリアル）として需要が高まっています。今や、ごみを資源として回収することが、世の中の大きな動きになっています。

以前は、ものを作る人と処分する人が直線で結ばれる関係でした。これからは、ものを作る人と、リサイクルする人が別々の会社でも同じ循環の中で回っていく仕組み、循環型社会（サーキュラーエコノミー）を実現して

いきたいと考えています。

土田事業場長 自社で使用する薬品を自社でどう回収して再生するか、時代により作り方や素材が変わってくる中、リサイクルという考え方で、長年に渡り継続的に研究をしています。自社の中で完結するのが一つの理想です。ただ、薬品によっては回収するのがなかなか難しいので、薬品を極力使わずに商品の性能を維持する研究も進めています。また、金属など自社ではやりきれない素材もありますが、他企業の協力を得て循環型社会を意識しながら今後も対応していくことは間違いありません。



AMADA 株式会社アマダ
富士宮事業所長 **甲斐 不二雄**

金属加工機械のグローバルメーカー。富士宮事業所は、北山の自然豊かな森林に囲まれた中にあり、板金加工機械等を開発・製造。



FUJIFILM 富士フイルム株式会社
富士宮事業場長 **土田 秀世**

写真フィルムなどで培ってきた技術を生かし、グローバルに幅広い事業を展開。富士宮事業場は大中里にあり、レントゲンフィルムなどを製造。

須藤市長 SDGsの目標11番「住み続けられるまちづくり」に向けて、ごみの増加は、まちが抱える問題の一つです。ごみの増加により、最終処分場はひっ迫しています。

富士宮市では、清掃センターの焼却処理費用の削減と最終処分場の延命を図るため、「ごみダイエットプロジェクト」を実施しており、市、市民そして事業者が一丸となって、ごみの削減に取り組んでいます。

今後は、プラスチックごみの分別収集に取り組みたいと考えています。プラスチックごみの分別収集は、ごみを資源に再生するとともに、最終処分場に埋め立てる廃棄物の量を減らします。また、ごみ焼却量も減るので、CO₂の排出量を削減するゼロカーボンへの取り組みにもつながります。今まさに、市が取り組むべきことだと感じています。

また、産業界での画期的な技術開発や発明は、世界中のSDGsにつながっていくのではないかと思います。企業の皆様は、富士宮市で大きく成長していただくことは、富士宮市にとって非常にありがたいことだと思っています。

パートナーシップで持続可能なまちへ

須藤市長 最後に、富士宮市の将来あるべき姿について、皆さんのお考えをお聞かせください。

甲斐事業所長 富士宮市と企業、それぞれの取り組みは、方向性が同じだと思っています。これからも、歩調を合わせて一緒にパートナーとしてやっていきたいと思います。

アマダ富士宮事業所は、多様な人材を生かしていくダイバーシティ化も一つの課題です。地元採用枠として高卒者を採用していますが、応募者は男性中心です。女性にも私どもの会社を選択していただけるような活動をこれから進めていきたいと思います。企業活動や企業紹介において、市と一緒にアピールする場を作らせていただければありがたいと思います。

佐野社長 富士宮市出身の会社がここまで頑張っていること、このリサイクル事業を認めてもらいたいというのが切なる思いです。

それが最大の地域に対する恩返しになると思っています。

富士宮市が世界文化遺産都市にふさわしいクリーンなイメージで、ごみ行政も含めて、最先端を歩む市になれるように、技術や人材で貢献させてもらいたいと考えています。

土田事業場長 業種を超えて、地域で結び付きを強めていきながら何ができるか、一企業としてではなくて、地域としてどう考え、地域にどう貢献するかを考える時代になってきていると思います。我々の使命として、ヘルスケア分野において、予防、診断、治療と3つの領域で人々の健康維持増進に貢献していきます。

富士宮市の一員として我々の役割を認識し、行政も一緒に、互いに力を合わせて目標達成に向けて取り組んでいきたいと思います。

須藤市長 ゼロカーボンや持続可能な社会を実現するには、一つの企業、一つの自治体の努力でできるものではなく、垣根を超えた連携が不可欠だと考えています。

SDGsの目標の17番にある「パートナーシップの構築」、これが

大切になります。

富士宮市としては、市民や事業者の皆様とのパートナーシップを築き、皆で協力して行動できるような呼びかけていきたいと思います。本日はありがとうございました。

富士宮市のSDGsは「富士山SDGs」

豊かな自然、湧水など、富士山から多くの恵みを受けている富士宮市では、富士山を通じて多くの人がつながり、地球全体のことを考えて行動し、あらゆる人が活躍する場を持つ、誰もが幸せに暮らし続けられるまちを目指します。

